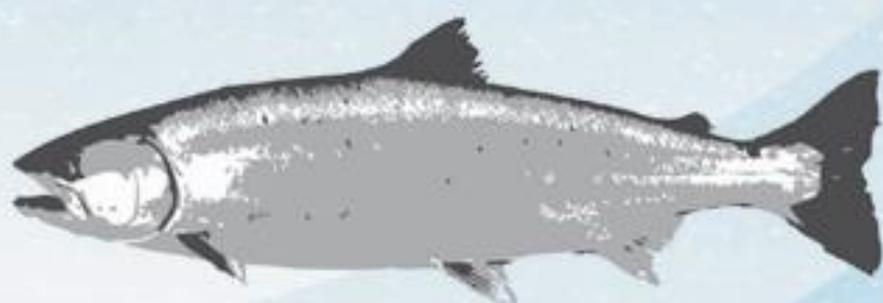


魚と水

Uo to Mizu



51-2

さけます・内水面水産試験場

目次

宮腰靖之研究主幹「日本水産学会 平成 25 年度水産学技術賞」の受賞 ・ ・ ・ ・ ト部浩一・實吉隼人・下田和孝	1
平成 26 年度東北・北海道内水面試験研究連絡協議会について ・ ・ ・ ・ 中島美由紀	2
NHK文化センター札幌支社による施設見学 ・ ・ ・ ・ 新井雅博	4
平成 26 年度中央農試公開デーに 3 回目の出展参加 ・ ・ ・ ・ 新井雅博	5
2014 サイエンスパークに出展参加！ ・ ・ ・ ・ 新井雅博	6

宮腰靖之 研究主幹

「日本水産学会 平成 25 年度水産学技術賞」の受賞

ト部浩一・實吉隼人・下田和孝

さけます・内水面水産試験場 さけます資源部の宮腰靖之研究主幹が、今年 3 月に函館で開催された平成 25 年度日本水産学会春季大会において、水産学技術賞を受賞されました。

これまで宮腰研究主幹は、サクラマスをはじめとする本道のサケマス資源の増殖と保全に関する研究に精力的に取り組んでこられました。サクラマスの放流効果評価の研究では膨大な野外データに基づく精緻な統計分析を行い、また、野生サケに関する研究では、全道各地を流れる 300 以上の河川において自然再生産状況の調査を行うなど、これまで課題とされながらもその実施は非常に困難とされてきた研究テーマに積極的に取り組み、数々の貴重な知見を報告されてきました。それらの成果は多くの国内外の雑誌に掲載されるとともに、高く評価されてきました。この度、これらの一連の研究成果に対し、日本水産学会よりその功績が認められ受賞となりました。その受賞内容は下記のとおりです。

【受賞者】 さけます・内水面水産試験場

さけます資源部 研究主幹 宮腰靖之

【受賞業績題目】

サケマス資源の増殖保全技術の向上

【水産学技術賞】

日本水産学会における賞には、日本水産学会賞、日本水産学会功績賞、水産学進歩賞、水産学奨励賞および水産学技術賞の 5 種あり、水産学技術賞は「技術上著しい業績を上げ、水産学ならびに水産業の発展に貢献した者に授与する」とされています。

【受賞理由】

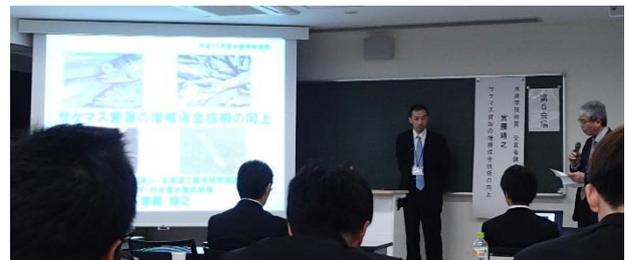
宮腰氏はシロザケやサクラマス資源の増殖保全技術の発展の為に、増殖効果を定量的に評価する方法を開発した。まず、サクラマスについては放流サイズと回帰率の関係を調査し、30g 以上のスモルトの放流効果が高いことなど、費用対効果も含め総合的に評価した。また、遊漁船や自動車を抽出単位とした定量的調査により、遊漁による影響も無視できないことを初めて明らかにした。次にシロザケについては北海道の 85 の非放流河川で、種

苗放流を実施している河川と合わせると 206 の河川で自然産卵を確認した。このように、宮腰氏の研究はサケマス資源の保全や増殖技術の発展に不可欠であり、国際的にも評価されており、水産学技術賞にふさわしいものと思われる。

受賞記念講演では時間の制約もあり、個々の研究について詳細な説明は行われませんでした。全ての研究成果が非常に膨大な野外調査に基づくものであることがひしひしと伝わってくる内容でした。

なお、受賞内容の詳細および受賞講演の概要につきましては、水産学会誌 80 巻第 3 号 321 ページにも掲載されています。是非、そちらも併せてご覧ください (https://www.jstage.jst.go.jp/article/suisan/80/3/80_314/pdf)。

水産学会から戻ってしばらく経った 4 月 28 日、さけます・内水面水産試験場の会議室で記念講演会を開催しました。講演会では学会での発表内容に加えて、これまで現場で進めてきたサクラマスやサケについての試験研究の成果が多数盛り込まれ、スライドには懐かしい方々や現役職員の若い頃の姿がありました。



写真上：渡部水産学会長から受賞内容について紹介

写真下：さけます・内水面水産試験場での講演の様子

(さけます資源部 うらべ ひろかず・しもだ かずたか
道東支場 さねよし はやと)

平成 26 年度東北・北海道内水面試験研究連絡協議会について

中島美由紀

本会議は、初夏の晴天の下、平成 26 年 6 月 26 日に札幌市の「かでの 2・7」会議室にて開催されました。この会議は、全国水産試験場長会の傘下の内水面水産試験場長会の地区会議に相当します。年に 1 回、東北 6 県と北海道が持ち回りで開催しており、会場が担当するのは平成 19 年以来の 7 年ぶりでした。今回は、独立行政法人水産総合研究センター増養殖研究所の鈴木内水面研究部長と東北 6 県の試験研究機関の場長・所長はじめ研究職員の計 11 名の方々に、会場から永田場長、小林副場長、小林さけます資源部長、鈴木内水面資源部長と他 12 名が加わり、総勢 27 名が参集しました。

当日は午前 9 時 30 分から永田場長の挨拶で始まり、小林副場長の司会により進行し、午前中は研究の事例発表、午後には場所長分科会と専門分科会に分かれて、最後に両分科会の報告で午後 5 時に締めくくられました。1 日のみの開催でしたが、活発な議論と有意義な情報交換がなされました。



写真 1 永田場長の開催挨拶
(撮影 新井主査)

では、本会議の内容をご紹介します。午前の研究事例では、主にサクラマス、アユ、シジミ、魚道、放射能を扱う以下の 9 題を各道県の担当者が発表し、熱心な質疑が繰り返されました。

- (1) シジミの水質改善効果と中間育成への取組みについて (青森県)
- (2) 生態系ネットワーク再構築を目的とした簡易魚道の開発 (秋田県)
- (3) アユ種苗生産の効率化への取組 (青森県)

- (4) サクラマスの増殖に関する研究について (岩手県)
- (5) 広瀬川における遡上量の推移と設置した魚道の効果 (宮城県)
- (6) 福島県の湖沼に生息する魚類の放射能調査 (福島県)
- (7) 最上川におけるアユ産卵期の禁漁と流下仔魚数の推移について (山形県)
- (8) サクラマスに関する魚道効果調査 (北海道)
- (9) 北海道のアユ研究の現状と今後の取り組み (北海道)

午後の場所長分科会では、全国内水面場長会議に向けての要望となる地域の懸案事項等を検討し、また、全国湖沼河川養殖研究会と養鱒技術協議会の加盟県は全国大会の開催要項等について報告が行われました。一方の専門分科会では、各道県が提出した以下の 13 の協議事項(括弧内は提案道県)と、各機関の平成 25 年度事業結果と平成 26 年度事業計画の概要、及び、平成 25 年度魚病発生件数並びにその概要や特徴に関してそれぞれ情報交換がなされました。

- (1) サクラマス稚魚(早期放流群、体長 5cm)用小型外部標識について (青森県)
- (2) サケマスふ化場における飼育用水の確保について (青森県)
- (3) アユ種苗生産における親魚系統について (岩手県)
- (4) 民間養魚場に対する施設整備等への支援について (宮城県)
- (5) 三倍体魚等の利用状況について (宮城県)
- (6) 冷水性魚類の発眼卵埋設放流について (秋田県)
- (7) 発眼卵および種苗の生産・販売の状況について (秋田県)
- (8) 今期のアユの遡上状況について (秋田県)
- (9) 水産用医薬品等の使用について (秋田県)
- (10) 放流種苗の由来について (秋田県)
- (11) アユ飼育用水に含まれる亜鉛の毒性について (山形県)
- (12) 河川における濁りの発生とその長期化による水産生物への影響について (山形県)
- (13) 汽水域漁場での漁獲物の異臭(カビ臭)の発生状況について (北海道)



写真2 午後の会議風景
(撮影 新井主査)

参加された皆さんは、それぞれ初めてお会いした方だったり、なつかしい面々だったり、いろいろだったようです。勤務地は異なるものの、担当する魚種や業務の状況が同じで共通の課題が多いため、話題に事欠くことなく、この会議の終了後の有志で集った情報交換会も盛況で時間が足りないほどでした。

最後には、次年度の開催地である山形県内水面水産試験場の鈴木場長から、「さくらんぼの季節にお待ちしております。」とのお言葉をいただき、各々方の活躍と健康を祈念してお開きとなりました。

(内水面資源部 なかじま みゆき)

NHK文化センター札幌支社による施設見学

新井雅博

平成26年6月18日(水)10時~11時半、NHK文化センター札幌支社主催の札幌教室(北海道見聞録)に参加された26名の方々が、さけます・内水面水産試験場を来訪されて、さけますに関する講義と施設の見学を行いました。

はじめにさけます資源部小林美樹部長から「内水試における研究内容やサケの生態や生活史等」について講義を行いました。講義の後、参加者からは「サケはどうして生まれた川に戻れるのか」や「アオマスとはどんな魚なのか」等の質問をいただき丁寧に説明致しました。



写真1 展示研修等で熱心に講義を聴く参加者の方々



写真2 サケ科魚類の名称やその特徴について講義する小林部長

次に施設の見学と屋外飼育池の魚たちへの餌やりの体験を行いました。



写真3 外飼育池で説明を受ける様子



写真4 餌やりを体験する様子

短い時間でしたが、参加者からは「内容がわかりやすくとても有意義でした」、「初めて訪れた研究施設ですがとても興味深い施設でした」等の意見をいただきました。

(総務課 あらい まさひろ)

平成 26 年度中央農試公開デーに 3 回目の出展参加

新井雅博

平成 26 年 8 月 1 日（金）9 時 30 分～15 時、長沼町にある地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部中央農業試験場で開催された、中央農試主催の公開デーにさけます・内水面水産試験場が出展参加しました。



写真 1 中央農試公開デーの受付

公開デーは、毎年この時期に地元の小・中学生や農業関係者等を対象に広報普及や体験学習の場として開催されており、さけます内水試の参加は、一昨年、昨年に続いて 3 回目の参加となりました。道総研からは、さけます内水試のほか林業試験場も参加し、道総研の組織や水産試験場で行っている研究の取組み等について紹介しました。



写真 2 公開でデーに参加した内水試職員

今回の公開デーも、好天に恵まれたこともあり、573 名（大人 345 人、子供 228 人）もの来場者がありました。

会場では、体験展示コーナーや試験ほ場のバス見学等が催され、会場からは、「水辺に棲む生き物たちを観察しよう！」と題して、展示コーナーに 3 つの水槽を置いて、ヤマベ、フクドジョウやベステル（チョウザメの稚魚）等を展示しました。会場職員から見学のこどもたちに魚の生態などについてわかりやすく説明し、写真やポスターなどを使って、解説しました。



写真 3 展示したサクラマスの稚魚（ヤマベ）

また、別棟の体験コーナーでは、畑の土で絵を描こうや小麦「きたほなみ」でクッキー作りの体験コーナーもあり、子ども達に大人気でした。

この日は、町内外から多くの小中学生が集まり、普段は静かな試験場内に一日中、子供達の歓声が響いていました。



写真 4 魚の生態について説明する内水試職員

（総務課 あらい まさひろ）

2014 サイエンスパークに出展参加！

新井雅博

平成 26 年 8 月 6 日 (水) 10 時～16 時、札幌市内のケーズデンキ月寒ドームにおいて、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構が主催のみんなで科学を楽しもうと題して「2014 サイエンスパーク」が開催されました。当日は、道総研等 38 団体が参加出展され、道総研水産研究本部からは中央水産試験場(余市町)とさけます・内水面水産試験場(恵庭市)が参加しました(写真 1)



さけます内水試としては、展示コーナーへ 3 年ぶりの参加となりました。河川に生息する魚たちを観察しようと題して、サクラマスやドジョウの稚魚たちを 3 つの水槽で展示しました(写真 2)。



また、他の体験コーナーでは、メロン果実の甘さを調べよう！やゼリーにくだものをのせて変化を観察してみよう！等に特に人気が集まり、食べ物の求心力の高さに驚きました。次に、ステージコーナーでは、科学クイズが出題され、当内水試からも展示している魚たちにちな

んだ 3 択クイズを出題しました(写真 3)。



正解者の子供たちには、参加機関からの記念品を贈りました(写真 4)。



この日の来場者は親子連れを中心に約 2,600 人を数え、会場内の熱気は最高となり、熱い 1 日となりました(写真 5)



(総務課 あらい まさひろ)

平成 26 年 9 月 1 日 発行

発行 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
さけます・内水面水産試験場
場 長 永田 光博

編集 さけます・内水面水産試験場 出版委員会
恵庭市北柏木町 3 丁目 373
(電話 0123-32-2135)